

現状維持は退化と言われる、気負う必要はないが、ボ～としてしていると特殊詐欺の格好の餌食になる。毎日のようにマスコミを賑わす特殊詐欺被害は当たり前になって私はカマス状態、まんまと嵌まった人は、嵌まらない人達の笑い者になっている、ほとんど同情する人はいなくなったのではないかと、つまり、騙す方は悪いが、騙される方がもっとアホーと見ているのだ。特殊詐欺に嵌まった状況を簡潔にすれば、

- ✓ 1 ; 身体を縛られたり、自由を束縛された状態ではない。
- ✓ 2 ; 恫喝されて中での出来事ではない。
- ✓ 3 ; 心身の異常で病棟にいる時でもない。

至って平穏状態で、至って健全な精神状態で、お天道様の下で堂々と交渉した上で一言われるままとは言い難い、何らかのやりとりは交渉なのだ――引っ掛かったもの（いやいや、交渉成立！）である。そう、何か難しい憲法論争を行った上で嵌まったということではない。むしろ、積極的にそのようなステージ・演舞の舞台・空間を求めて飛び込んだのである、だから、被害に遭ってから後で初めて気付いたということになる。特殊詐欺に引っ掛かる人は、繰り返すが、学歴や社会的地位に関係なく、相手の饒舌・<sup>じょうぜつ</sup>話術に嵌まってしまうということだから、それまでの人生経験が蓄積・築層・蓄蔵されて形成された体内文化の価値基準が呼応・共鳴し、万物の霊長としての最も高度な意識を以って「判断」した結果なのである、詐欺者との応対は、被害者の体内文化が噴き出た形「体内文化の発現」そのものなのだ。世の中、「後祭り」という祭りもある、勝負の駆け引きで「後の先」ということもある、被害者はそれを楽しんでいる？ のか。被害に遭ったと言うが、公務員である警察の手を煩わせるのは税金の無駄遣いである、被害者ではなく、むしろ、税金搾取の犯罪者である。他方で、雑誌や報道各社の格好のネタとなる、一種の社会貢献である、大したものである?!

ここで私如き小物が言っても迫力がないので先人から学ぶことがある。

その1 ; 悟りを開いたお釈迦様（仏陀）は、インド各地を巡って伝道の旅に出たが、ある村で大病を患った処で弟子が「何か遺言はないか」と尋ねた処、「**お前たちは、ただ自らを灯明とし、自らを抛り所とし、他人を頼ることなく、修行せよ。**」と話されている。

その2 ; 仏陀の言葉（集）『スッタニパータ』――最初期に編纂された最古の仏典の一つとされる「第一 蛇の章 三、犀<sup>さい</sup>の角」には、41 句の言葉が並んでいるが、その句毎に最後に『犀<sup>さい</sup>の角のようにただ独り歩め』という言葉がある。犀の角とは孤独の比喻表現である。他人・タマりに依存することなく、自らの独立独歩を磨けという教えである。

その3 ; ここに至りとても感動したことがあった。2019(R元)年6月18日(火)、東京地裁において、コカインを使用した罪に問われたミュージシャンで俳優のピエール瀧被告に対する裁判長「説諭」の中で「・・・迷ったり悩んだりした時は、『人生』という言葉の意味を自分の胸に手を当てて考えてください」と話された。他人・タマりに依存することなく、自らの独立独歩を磨けという教えである。決して、総理大臣に聞けとか、国会議員に聞けとか、宗教者に聞けとか、地域コミュニティの何とか会の長に聞けとか、お友達に聞けとか、そんなことは一切出していない。「他人の胸に当てよ、他人を探せ」とは一言も言っていない。『自分の胸』は「他者・他物・タマリ」への依存では磨かれない。『自分の胸』は自分で磨く他は無いのである、その上で「自分を探せ」である。こんなことを考えさせてくれた前出裁判長に心から敬意を表する。

さて、私の日々の暮らしは同じ状況の繰り返しでマンネリ化へと自然な動きとなる、その中で充実した人生の意義とは何なのか？ 何気ない同じ状況を繰り返す日常の日々をどう生きるのか？ 結局、生きがいとは日々の生活での些細なことに問題意識を持ちきちんと向き合うことから生まれるものであると思う。眼前の情景に**問題意識の有りや否やである**である。**視界に入った怪しげな「もの・こと」に対して、人間は本来“あれ???”と自動反応するように出来ている、そこで、どのように対処するかである、**

**①逃げるか**

**②放置するか**

**③隠された意味を突き止めようとするかである。**

ところが、①②の流れるままに身を任せ、安直を求めつまらぬことで日々を過ごすものだから感性が鈍る、直観力が衰退し、自動反応が自生・隆起しないのである。①・②で何とかごまかそうとするものだから蒙昧して来る。それではどのようにすればよいのか。これも答えは簡単 Simple is Best、③である。日頃から心の修養が必須である。一人にあっては、<sup>せきがく</sup>碩学・聖賢・英哲の書・良書・啓発の書、根本經典の書を求めることである。処世術ノウハウ本、仕事に係る専門書、週刊誌・月刊誌だけでは人間は満足しないように出来ている。対人関係にあっては善友を求めることである、茶飲み話で他人の影口・悪口で無駄な時間を消費するようでは何の得にもならない。

ところで、女性の平均寿命が長い理由は様々あるが、おしゃべりが好きなこと——社会的つながり、コミュニケーションが要因の一つとされる、特殊詐欺被害者は相対的には全国的に見ても女性が圧倒的に多いのではないか、多くのコミュニケーションはとてもよいだろうが、「ムレ・グル・衆のタマリ」に投身した塩漬け状態になると、そのタマリの「何とか長」に洗脳されて硬直化し返って逆効果となる、副作用・反作用の悪戯が心に画策するのだ。その因果として騙されるのだ。男女に係らず日常をテレビ・新聞・ビデオ・雑誌に専念し、古賢先哲の書や善友とは何かという問題意識の無い性格は、「カマス・湯で蛙」状態になるからは自業自得ということになる。それにしてもうまくバランスが取れるものである?!

陽明学始祖王陽明は「事上磨錬」を説いたが、日々日常の細々としたことにおいて、その都度に問題意識を持ち逃げない、納得行くまで徹底追及し解決する実行が必要、面倒くさいからと深く考えもせず安直に誰かに助言を求めて、極め付きの“そのうち”が口癖の悪弊で自分を誤魔化せば人生上手くいくはずはないのだ。自助・共助・公助というが、社会福祉分野のみならず、何事への対応についても、<sup>へ</sup>考え方の傾斜配分（時間配分では無い）としては、私は8対1対1の割合で対応している。しかし、何気ない日常において無頓着に1対4対5に流されていると、様々な災難にまんまと引っ掛かるのではないか。私は自助（自立）を強調するが、片や「ノブレス・オブリュージュ（高貴なるものの義務）」を強く要求する考え方がある、つまり、国会議員を初めとする議員諸侯、国家公務員、地方公務員、見なし公務員、民間企業を問わず、そして、地域コミュニティまで至るあらゆる部門に存在する「何とか長」（役職・肩書）は、その立場に係る責任と義務の100%履行・100%実行を要求するものである。

なんだかんだ言っても、生きているとは、先人・聖賢の教えを咀嚼し、求道理想精神を涵養・陶冶することであり、天地（の間）に凜と立つことだと思っている。身の丈吾身の真性（天性）を徹見し、返って、身の丈を奮って世の真実・真理を見極めたいと念ずる。私はそこかしこに、余命少ない人生において、清新澆刺、身の丈孤高の妙を十分に味わいたく、最後は満足・満足・大満足！ 成功・成功・大成功！と心静かに唱え、息をこの世に置いてあの世に逝きたいと記述している。

\*\*\*\*\*

華嚴經に関する解説は学者が書いた数多の論文がある中で、木村清孝著「さとりの道（華嚴經に学ぶ）／NHK 出版」から一つだけ取り上げる。華嚴經の中樞の教に「心、<sup>もろもろ</sup>諸の如来を造る」「すべては心の表れである」という考え方がある。この教説は菩薩道のありよう（人間の生き方）の基軸となるのが『一日一日の、否、一瞬一瞬の心であることを明確に示しています。心の拠り所をどこにおき、心をどちらに向けるのか、その一瞬一瞬の積み重ねが、私達を地獄（不幸）にも、浄土（幸福）にも導きます。』ということである。

(end)